月　日　名前　　　　／100点

【答え】

【小6】国語　文章問題　説明文 3

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

　スマートフォンの地図を使えば、はじめての町でも、目的地まで迷わずに行くことができます。画面の矢印のとおりに歩けばよいのですから、とても便利です。けれども、地図にたよって歩いた道を、帰りに一人でたどれるかと聞かれると、自信のない人も多いのではないでしょうか。

　画面の案内にしたがって歩くとき、わたしたちの注意は、ほとんど手元の画面に向いています。どの角を曲がったか、どんな店の前を通ったかは、あまり目に入っていません。道のりは「たどったもの」ではなく、「連れていかれたもの」になっているのです。そのため、頭の中に町の様子が残りにくいのです。

　一方、紙の地図を持って歩くときは、ちがいます。今自分がどこにいるのかを、まわりの景色と地図を見比べながら、自分で確かめなければなりません。駅がこちらに見えるから、北はあちら。大きな公園の角を右へ。こうして考えながら歩いた道は、町の姿といっしょに、頭の中にきざまれていきます。

　もちろん、便利な道具を使うことが悪いわけではありません。急いでいるときや、夜の知らない町では、地図アプリは心強い味方です。大切なのは、道具にすべてをまかせてしまわないことです。ときには画面から顔を上げ、自分の目で町を見て、自分の頭で道を選んでみる。そうすることで、道具がなくても歩いていける力が、少しずつ身についていくのです。

（この問題のための書き下ろし）

問一　画面の案内にしたがって歩くとき、わたしたちの注意はどこに向いていますか。本文から十字までで書きぬきましょう。

手元の画面

問二　「『連れていかれたもの』になっている」とありますが、どういうことですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　だれかに手を引かれて、無理に歩かされたということ。
イ　車に乗せてもらって、目的地まで行ったということ。
ウ　自分で考えて道を選んだのではなく、案内のとおりに運ばれただけだということ。

ウ

問三　紙の地図を持って歩いた道が、頭の中に残りやすいのはなぜですか。四十五字までで書きましょう。

景色と地図を見比べ、自分で確かめたり考えたりしながら歩くので、町の姿が頭にきざまれるから。

問四　この文章で筆者がいちばん言いたいことは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　便利な道具は使わずに、いつも紙の地図を使うべきだ。
イ　道具を使いながらも、ときには自分の目と頭で道を選ぶことが大切だ。
ウ　知らない町には、一人で出かけないほうがよい。

イ

【小6】国語 文章問題　説明文 3　答えと解説

問一（二十五点）　答え：手元の画面　（ほとんど手元の画面 でも正解）

解説：二つ目のまとまりの最初の文から。

問二（二十五点）　答え：ウ

解説：「たどったもの」と「連れていかれたもの」をくらべている。自分で道をたどっていないので、町の様子が残りにくい。ア・イは言葉のとおりに読んでしまったもの。

問三（二十五点）　答えの例：景色と地図を見比べ、自分で確かめたり考えたりしながら歩くので、町の姿が頭にきざまれるから。

解説：三つ目のまとまりから。二つ目のまとまり（画面の案内）とくらべると分かりやすい。二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①まわりの景色と地図を見比べ、自分で確かめながら（考えながら）歩く

②町の姿が頭の中にきざまれる

問四（二十五点）　答え：イ

解説：最後のまとまりから。「道具を使うことが悪いわけではありません」とあるので、アは合わない。ウは本文に書いていない。

free-print.net　|　文章・問題は free-print の書き下ろし　|　学校・塾での印刷・配布は自由です